

自然が宿るライフスタイル



Birger Kaipainen



Dora Jung



Annika Rimala



Vuokko Nurmesniemi



Tapio Wirkkala



Aini Vaari



6



5

ザ・フィンランド デザイン展 10

Finnish Design for Everyday Life

Patterns and Forms Inspired by Nature



Tove Jansson

©Moomin Characters™



Kaj Franck

9



Alvar Aalto

7

Timo Sarpaneva



10

2020.10.10 SAT ▶ 11.15 SUN

※休館日:10月26日(月)

【開館時間】 午前9時～午後5時 ※入館は閉館の30分前まで 【観覧料】 一般:1,000円(前売・20名様以上の団体料金:800円)

【会場】 鳥取県立博物館 第1・第2特別展示室

※次の方は無料です。◎大学生以下 ◎学校教育活動での引率者
◎障がいのある方、難病患者の方、要介護者等およびその介護者 ◎70歳以上

【主催】 鳥取県立博物館、NHK鳥取放送局、NHKエンタープライズ中国 【特別協力】 HAMヘルシンキ市立美術館 【後援】 フィンランド大使館

【協力】 フィンエアー、フィンエアーカーゴ 【協賛】 吉備総合福祉、三和商事、TTC鳥取県情報センター、日本通運、モリックスジャパン

【企画協力】 S2 【制作協力】 NHKプロモーション

鳥取県立博物館
TOTTORI PREFECTURAL MUSEUM

〒680-0011 鳥取県鳥取市東町2丁目124 TEL.0857-26-8042 FAX.0857-26-8041
https://www.pref.tottori.lg.jp/museum/ E-mail: hakubutsukan@pref.tottori.lg.jp

1.ビルゲル・カイパイainen「ナラティオン」プレート他、1969-1974年、陶器(ファイアンス焼)、アラビア製陶所、ヘルシンキ市立博物館蔵、Photo/Yehia Eweis 2.ドラ・ユング「線の遊び」テーブルクロス、モデルNO.578、1957-1974年、麻(ダマスク織)、タンベラ社、タンベラ市立歴史博物館蔵 3.タピオ・ヴィルクカラ「ウルティマトーワレ(世界の果て)」グラス、1969年、ガラス、イッタラガラス製作所、コレクション・カコネ蔵、Photo/Rauno Traskelin 4.アンニ・カマリマ「ケイダス(オアシス)」テキスタイル、「ヴァルスタヤンタッキ」コート、1967年、綿・シルクスクリーンプリント、マリメッコ社、フィンランドデザインミュージアム蔵、Photo/Harry Kivilinna 5.アイニ・ヴァーリ「タッキウレトシ(更紗)」(サンブル)、1960年、綿・プリント、フィンレイソン社 ©Finlayson タンベラ市立歴史博物館蔵 6.ヴオッコ・ヌルメスニエミ「ピッコロ」テキスタイル、「トゥッチェリ」ドレス、1953/1959年、綿・シルクスクリーンプリント、マリメッコ社、フィンランドデザインミュージアム蔵、Photo/Harry Kivilinna 7.アルヴァ・アアルト「キャンチレバー」チェア31(黒・アルムチエア)ノバ(白・ミオサナド)ノバ工場のオリジナル製品、1931年、木(白樺)・合板、木工家具・建築設備社(トウルウ)、フィンランドデザインミュージアム蔵、Photo/Rauno Traskelin 8.トーマス・ヤンソン「アウララ小児病院壁面「遊び」のためのスケッチ、1955年、タンベラキャンパス、ヘルシンキ市立美術館蔵、Photo/Hanna Kukkonen 9.カイ・フランク「BAキルタ」カップ&ソーサー他、1952-1975年、陶器(ファイアンス焼)、アラビア製陶所、ヘルシンキ市立博物館蔵、Photo/Yehia Eweis 10.ティモ・サルパネヴァ「アンビエント」、1965-1966年、綿・プリント、タンベラ社 ラビニエニ工場、タンベラ市立歴史博物館蔵

ザ・フィンランドデザイン展+

フィンランドは美しいデザインの宝庫です。人々が長きにわたり暮らしの中で使い続け、そして癒されているそのデザインは、大いなる自然を忘れないという考え方に裏付けられています。フィンランドの人々は建国前から大地の豊かさを生活に取り入れ、その結果生まれたライフスタイルを愛してきました。自然とともにある暮らしは、優れたアーティストやデザイナー、建築家たちを生み、彼らの活躍により、自然の恵みを生かしながら洗練されたデザイン・プロダクツを生産し、皆がシェアする近代的な社会が確立されていきました。その積み重ねは、より優れたフィンランド独自のデザインを生み出し続ける原動力となり、魅力的なその製品は今なお世界各国で支持されています。

本展では、ヘルシンキ市立美術館監修のもと、200年にわたりフィンランドという国を支えた染織、およびガラス工芸の分野の名品を中心に、彩りに溢れ、創造性に満ちたデザイン・プロダクツの数々を、フィンランドのタンペレ市立歴史博物館、コレクション・カッコネン、フィンランド・デザイン・ミュージアムのコレクションを中心とする約250点の作品と約80点の関係資料で紹介いたします。フィンランド同様に自然豊かで、優れた手仕事の残る鳥取県で、四季の変化の激しい自然環境と共存するフィンランドの人々の豊かな生活思想と、温かみと洗練さを兼ね備えたそのデザインの世界を楽しんでいただきたいと思います。



1. ナナスニ(ドレスデザイン)、アンナ＝リーサ・エミネン(テキスタイルデザイン)「サークル・パターン」ドレス、オーロラコレクション、1966～1967年、ウール・プリント、スオメントリコー社、タンペレ市立歴史博物館蔵、Photo/Jaana Säilynoja
2. イルマリ・タピオヴァーラ「ドムスチェア」、1946年、木(白樺)・合板、ケラヴァ木工、フィンランド・デザイン・ミュージアム蔵、Photo/Rauno Träskelin
3. クルト・エックホルム「AH」蓋つきボウル他、1935年、陶器(ファイアンス焼)、アラビア製陶所、フィンランド・デザイン・ミュージアム蔵、Photo/Kirsi Halkola
4. マルアッタ・メツォヴァーラ「花」、1962年、綿・プリント、タンペレ社、フィンランド・デザイン・ミュージアム蔵、Photo/Kirsi Halkola

関連プログラム

記念対談「フィンランドデザインの魅力」

- 日時 10月10日(土) 14:00～15:30
- 会場 2階講堂(参加費無料)
- 講師 ハリー・カルハ氏(本展ゲストキュレーター)、
迫村裕子氏(企画協力会社代表)
- 司会進行 三浦努(本展担当学芸員)
- 定員 70名(申込不要・先着順)

記念講演&ワークショップ

「フィンランドの文化に触れる」 期日:10月17日(土)

- 講演「フィンランドの女性たちのライフスタイル」
- 10:30～12:00 ●会場 2階講堂(参加費無料)
 - 定員 70名(申込不要・先着順)

ワークショップ

- 「編み物しながら、フィンランド流おうち時間を体験」
- 14:00～16:00 ●会場 2階会議室(参加費無料)
 - 対象 一般 ●定員 先着20名(要申込)
 - 申込 10月2日(金) 8:30～ 電話とFAXで受付
 - 講演&ワークショップ講師 アンナ＝マリヤ・ウィルヤネン氏
(フィンランドセンター所長)
 - 進行・通訳 迫村裕子氏(企画協力会社代表)

スペシャルアートシアター

「かめめ食堂」

(2005年、原作:群ようこ、監督:荻上直子、102分、BD)

フィンランドの首都ヘルシンキの街角でオープンした小さな食堂を舞台に、3人の日本人女性が繰り広げる穏やかな日常を綴ったドラマ。出演は小林聡美、片桐はいり、もたいまさこ他。数々の優れたデザインを生んだ街の雰囲気とあわせてお楽しみください。

- 日時 10月24日(土) 14:00～15:50
- 会場 2階講堂(参加費無料)
- 定員 70名(申込不要・先着順)

ギャラリートーク

(本展担当学芸員による展示解説)

- 日時 10月31日(土) 14:00～15:00
- 会場 本展展示会場(要観覧料)
- 定員 なし

ワークショップ

「挑戦! 私もテキスタイルデザイナー」

- 日時 11月7日(土) 14:00～16:30
- 会場 本展展示会場、2階会議室(観覧料のみ必要)
- 講師 ワークショップづくり隊、三浦努(本展担当学芸員)
- 対象 小学校高学年～一般
- 定員 先着15名(要申込)
- 申込 10月23日(金) 8:30～ 電話とFAXで受付
- ※汚れても良い服装でご参加ください。

アートセミナー

「この展覧会を準備するなかで考えたこと ～デザインの根底にあるものから文化施設のあり方まで」

- 日時 11月14日(土) 14:00～15:30
- 会場 2階講堂(参加費無料)
- 講師 三浦努(本展担当学芸員)
- 定員 70名(申込不要・先着順)



交通のご案内

- ◎ JR鳥取駅からバスで
a. 100円バス「くる梨(緑コース)」で「仁風閣・県立博物館前」下車すぐ
b. ループ麒麟獅子(土・日・祝日のみ)で「鳥取城跡」下車すぐ
c. 砂丘、湖山、賀露方面行「西町」下車約400m
d. 市内回り岩倉、中河原方面行「わらべ館前」下車約600m
- ◎ JR鳥取駅からタクシーで…約10分
- ◎ 鳥取空港から…鳥取駅行連絡バスで「西町」下車約400m
- ◎ お車で…鳥取自動車道・鳥取ICより約15分
- ◎ 当館駐車場40台駐車可能 ※なるべく公共交通機関をご利用ください

いっしょにみてみて、もくようび。

展示室に小さなお子様と一緒においでいただき、気兼ねなく作品鑑賞をしていただくための時間として、会期中の毎週木曜日の午前中を「子どもと一緒に鑑賞優先時間」としています。ペピーカーを押して、ぜひお越してください。

次回展覧会

ミュージアムとの創造的対話03
何が価値を創造するのか? (仮称)
11月28日(土)～12月27日(日)

鳥取県立博物館
TOTTORI PREFECTURAL MUSEUM

〒680-0011 鳥取県鳥取市東町2丁目24 TEL.0857-26-8042 FAX.0857-26-8041
https://www.pref.tottori.lg.jp/museum/ E-mail: hakubutsukan@pref.tottori.lg.jp



新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、本展の会期や内容に変更が生じる可能性があります。最新情報は、鳥取県立博物館ホームページにてご確認ください。